

実施月：令和6年2～3月

事業所名：児童発達支援センターマイム

職員数：17 回答数：17 割合：100%

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない 無記入	ご意見	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	5	0	<ul style="list-style-type: none"> 定員数全員が来たら、スペースが足りない。 各クラスで使用したい部屋の仕組みが確保されていない。 職員配置を考えるとやや狭い。 少し狭いと感じる。 人数が定数に近づくと生活空間がいっぱいになるため、く風が必要である。 制度上は大丈夫である。実際の支援で狭いと感じるが、工夫して使用している。 利用しているお子さんがお休みの時に、使用する部屋を調整して工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 当センターでは1人あたり約3～6㎡と基準を満たしています。クラスによっては、狭さを感じる時もあり、体を動かす活動には、廊下やホール、遊戯室などで実施するなどの配慮をしています。令和5年度から、重心外（短時間）の支援はプレイルームや支援の部屋を増やすための配置換えを行う等、改善を図りました。今後、エメット保育園とマイムの共有スペースも検討して改善を図って行きます。
	② 職員の配置数は適切である	9	8	0	<ul style="list-style-type: none"> 保育士の人数が足りない。スタッフの働きやすい環境を作り上げて退職者を減らしてほしい。 保育を主軸としているが、保育士が少ない（重心クラス） 少ないと感じる。 送迎の職員が1名増えると子どもの支援が安定する。 制度上、大丈夫であるが、実際の支援では手薄と感じることもある。 他のクラスからサポートしてもらおうが、利用者が増えると検討は必要である。 欠員のまま、クラス運営しているため、疲弊した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の能力や可能性を伸ばすための支援計画を基本に、必要な職員の定数を確保してきました。産休等の欠員もありましたが、定数の確保は維持できました。今後、職員の動線や物の置き方など支援を行う環境について良く精査し、計画的な支援を行って行きます。 配置基準は満たしている上、加配人員での配置をしています。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 床上での生活がメインの重心クラスにも関わらず、床が堅く転倒のリスクが高い。体の動きを積極的に促すことが難しい。 限られた環境の中で各クラスが工夫して対応している。 開放的で美しい反面、窓の大きさが外気が侵入し、室温管理に配慮が必要である。 わかりにくい所もあるが、多様な障害のある子どもが使えるようになっている。 部屋の広さはお子さんの障害特性に合わせているが、クラス内のお子さんのグループでは配慮できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の基本的な構造は変更できないため早急な改修は行えませんが、子どもの安心・安全と成長を支援する構造について、検討して予算確保し、長期的、中期的な改善を図って行きます。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 清掃は丁寧に実施している。 音の問題や導線の悪さ等、支援活動のやりにくさを感じる。 	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	11	0	<ul style="list-style-type: none"> 記録は取れて居るが、直接話し合う時間が少ない。 クラスの支援後、職員同士で振り返りを行っている。 発信しているが他者に共有されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な運営を実施する中、職員全体の共有方法や意識改善を積極的に進めると同時に、多様な方法で職員の参画について改善を図ります。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	3	0	<ul style="list-style-type: none"> わからない。報告も聞いていない。 可能な限り改善につなげる努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング等で保護者のニーズを聞き取り、支援の改善を実施しています。また、今年度は、保護者と外部専門家の個別相談や就学に向けての研修会も実施しました。今後は、保護者の意見を聞ける場を設ける等、保護者会の実施を進めます。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	5	0	<ul style="list-style-type: none"> 載せている部分もあるが、職員には改善が感じない。 わからない。 毎年、HPに公表している。 	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	3	1	<ul style="list-style-type: none"> わからない。改善を感じない。 外部機関に依頼して実施している。 業務の改善につながっているとは疑問である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者による外部評価を実施し、支援や業務改善につなげています。今後は支援等の改善された項目についてHPなどで明確に周知し、組織的な業務改善に反映させて行きます。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	8	0	<ul style="list-style-type: none"> センター内のセラピスト等の研修会を実施してほしい。 少しずつではあるが努力している。 これから研修が増えていく予定である。 事業所内での研修ができていない。施設内で研修動画が配信されている。 研修費の予算、及び平日開講の上限がある。選択肢が少ないので改善してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、試行的に外部専門家を活用した研修会や保護者支援を含めた支援の研修を実施しました。また、今年度、新たに職員の研修要項を定めました。 研修後の職員同士の共有や組織の資質向上が図られたか、職員の評価と同時に組織全体の共有のシステムの改善を今後、検討して行きます。 組織全体の人材育成に向けた研修について更に検討を進めます。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	3	1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と話す機会が少なくニーズの把握できない。 個々の課題に適した支援計画は作成している。 研修日の予算を拡大してほしい。 保護者のニーズを的確に把握するよう情報共有に心がけているが、把握されていないこともある。改善が必要である。 クラス内全員でアセスメントの話し合いを実施し、作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、子ども一人一人の客観的なアセスメントから子どもの中心的な課題や、保護者のニーズを引き出す、個別支援計画の作成手順を作成し、実践と照らし合わせて評価を行って行きます。今後、すべての子どもたちの個別支援計画には、5領域とのつながりを明確化する必要があり、適切なアセスメントツールを取り入れ、更には家族支援、地域支援を行う組織的研修を短時間でも継続的に実施して行きます。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	10	1	<ul style="list-style-type: none"> 開設時からの課題のひとつである。 検査結果など見る機会はあるが、標準化されたツールはまだ使用していない。 経験的に評価しているため、適切なアセスメントツールを取り入れて行きたい。 	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	7	1	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援、地域支援は全くできていないとは思わない。 支援に必要な技術がないため、研修が必要だと思う。 令和6年度から実施している。 お子さんの支援が整備された段階で、家族支援、地域支援は組織的な研修が必要である。 子どもたちに必要な支援内容を設定しているが、「項目」は確認しにくい。計画書の様式の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援ガイドライン等を参考にしながら「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」について具体的に進めています。今後、中期的な計画を立てながら必要な項目の整理と支援内容、評価のサイクルを検討して行きます。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	17	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 支援に差が出て混乱することがないように、その都度確認したり、担当制を導入したり工夫している。 基本的には支援計画に沿った支援を実施している。状況によっては変更している。 計画に準じているが、時々支援内容が合っていないこともあるため支援計画に準じていく。リアルタイムな支援計画の変更が今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援を実施するなど、児童発達支援計画に沿った支援を実施しています。子どもの成長が早い場合、成長の変化を、短時間で効率よく情報共有できる仕組みを今後、検討して行きます。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	12	4	1	<ul style="list-style-type: none"> チームで行うための話し合う時間がない。 必要時に報・連・相は実施している。 保育士が生活の流れを組み立て、その上で個別支援計画から個別の支援を実施している。 話し合いをしているが、プログラムの立案は個人に負担をかけていることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間のサービス提供のクラスは、職員の話し合いの場や共有の場が少なく、支援の計画や変更の共有がされにくいことは、昨年度に引き続き、今年度も課題でした。外部の専門家による短時間ではありますが、ケースカンファレンスも実施しました。今後、時間の確保と、情報の共有について今後、具体的な改善策を検討して行きます。各クラスと連携して、計画的に人員をシェアしてセンター全体で連携できる体制を整えて行きます。 一日支援のクラスは、集団活動を中心に、個別の支援を試行的に実施してきました。来年度も、短時間ではありますが、各クラスで具体的に実施できるようにアセスメントや支援等の情報共有を行い、見直しして行きます。 支援に関する情報等、職員の必要な共有の時間を定期的に確保して行きます。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	2	1	<ul style="list-style-type: none"> お子さんの担当制が取れないことで、プログラムが偏る傾向にある。 繰り返しが必要なお子さんには繰り返しの支援をするが、できる限り変更をするようにしている。 お子さんが個別支援やグループ支援によって、継続的に繰り返しの支援をした方が良い場合もある。その都度変更をしている。 	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援活動は個別支援計画、集団の活動は保育計画で支援している。 お子さんの障害の特性や状況に合わせて計画を作成しているが、必ず集団と個別を組み合わせるプログラムにはなっていない。 保護者のニーズも聞き取り、計画を作成している。 	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 実施しているが、聞いていないことが多い。 支援の検証にはつながっていない。 人員の関係上、実施しないことが多い。 時々、変更が重なり混乱することもあるので、個々への職員の声掛けをしている。 その日によって、簡単に済ませることもあるが、必ず打ち合わせを実施している。 	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 人員の関係上、実施しないことが多い。 限られた時間中で支援を実施しているため、できる限り要点をまとめるようにする。 基本的には支援の内容を振り返るようにしている。 	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	3	1	<ul style="list-style-type: none"> 保育支援に関しては記録をとっているが、他の業務も多く、時間が取れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の精選等を行い、年間計画で支援に関する情報共有の時間を計画的に実施します。
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	17	0	0	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング等が遅れてしまうことはあるが、計画の見直しをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のモニタリングを実施して、職員間で情報を共有しながら個別支援計画に沿って、子ども一人一人の支援の改善を図って行きます。 	

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない 無記入	ご意見	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②① 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	4	1	・実施の提案、必要な関係機関への参加を打診して実施している。 ・都合をつけて積極的に参加している。	・相談支援事業所のモニタリングを通して、連携をしていますが、今後は、相談支援の担当者会議等に、積極的な参加をして、連携を図っていきます。
	②② 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13	4	0	・相談支援員を通して実施している。 ・多くのお子さんが併用している事業所等と連携して支援の充実や連動性が出てくると思う。 ・少しずつ連携が始まっている。	・市の母子保健や子育て支援等の関係機関とは、管理者中心に情報交換や連携をとってきました。来年度は、相談支援員を配置して、各クラスと情報を共有しながら、家族支援や、地域支援を実施して行きます。
	②③ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の状況に精通した最もふさわしい者が参画している) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	6	4	・情報収集を中心に実施している。 ・障害の状況に応じて保護者のみの連携ではなく、関係機関と連携した支援が必要である。	・医療的ケアが必要な子どもについては、市や関係機関との調整、情報収集や見学の受け入れをしてきました。また、今年度から保育所等訪問支援に加えて居宅型訪問児童発達支援も実施し、相談支援と連携をしながら、医療的ケア児等への地域の保育園、幼稚園、学校等関係機関との連携構築が図られるようになってきました。 ・今後は、更に、相談支援と連携を図り、保育所等訪問支援や居宅訪問型児童発達支援の拡充を図りながら、連携体制を進めインクルーシブな支援の拡充を図って行きます。
	②④ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	3	6	・整っているお子さんもいるが整備されていないお子さんもいる。 ・居宅訪問型児童発達支援は未だ、不十分である。 ・発作の記録をつけ提出するなど連携の工夫をしている。主治医や担当者によっては話を聞いてもらえることがある。 ・連絡先は把握しているが実際には連絡をしていない。 ・障害の状況に応じて保護者のみの連携ではなく、関係機関と連携した支援が必要である。	・今年度、本センター卒園生の保護者や地域の先輩保護者による就学に関する情報共有の会を実施しました。地域の特別支援学校の情報に精通した外部専門家も呼び、就学に関する研修会を実施するなど、積極的に情報発信と共有を進めてきました。また、就学に関する情報共有として、特別支援学校の見学も積極的に実施しました。今後、保護者支援や特別支援教育の情報に精通した職員による保護者支援や就学など移行支援について、移行支援の情報共有と研修を実施して行きます。
	②⑤ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	4	2	・移行につなげている子どもさんが少ない。 ・就学は情報を共有しているケースがある。 ・相談支援員を通して実施している。 ・あまり移行支援につなげられていない。もう少し積極的に移行支援に繋げて行きたい。 ・少しずつ連携が取れてきている。	・今年度、本センター卒園生の保護者や地域の先輩保護者による就学に関する情報共有の会を実施しました。地域の特別支援学校の情報に精通した外部専門家も呼び、就学に関する研修会を実施するなど、積極的に情報発信と共有を進めてきました。また、就学に関する情報共有として、特別支援学校の見学も積極的に実施しました。今後、保護者支援や特別支援教育の情報に精通した職員による保護者支援や就学など移行支援について、移行支援の情報共有と研修を実施して行きます。
	②⑥ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	8	0	・特別支援学校から出向くなど、丁寧な共有ができています。 ・就学支援シートなど情報共有している。	
	②⑦ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	12	1	・もう少し機会を増やしてほしい。 ・情報交換は実施している。 ・少しずつ連携もできてきているが、これから大切にして進めたい。	・今年度、情報パンフレットを作成するなど、東村山市と連携して、児童発達支援事業所や専門機関と連携した情報共有や支援に関する研修を実施しました。市内事業所の、今後も、児童発達支援に関する情報の発信を、センターとして発信し、地域の児童発達支援事業所と連携構築を図って行きます。
	②⑧ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	9	8	0	・担当者から積極的に働きかけたら交流する機会もある。 ・少ない。もっと増やしてほしい。 ・併設されている保育園との交流も難しいことも多いが、散歩など一緒に計画できると良い。 ・併用しているお子さんが多いため、障害のないお子さんと活動する機会もある。	・今年度は、同一建物内のエメット保育園(0から2歳児)との交流を、感染予防対策をとりながら定期的に実施することができました。また、地域の保育園との交流は、今後積極的に実施に向けた検討をして行きます。
保護者への説明責任等	③⑨ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	11	3	・センター長が参加している。	・東村山市児童発達支援センター連絡会は2回開催され、市と協力して企画運営を行いました。自立支援協議会相談部会、児童発達支援の役割を講演しました。今後、センターとして更なる情報発信と地域のとの共有を行います。
	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15	2	1	・毎回、クラス支援後にクラスの職員とフィードバックしている。 ・話せる時間がない。見学や保育参観できる機会を作ればよい。 ・面談の実施頻度は多く設けている。 ・送迎職員と連絡を取り合い、漏れのようにしている。保護者対応に直接関わる部分なので研修等に力をつけられるとより信頼関係ができてくると思う。	・今年度も、就学に関する研修会を、対面、オンライン、動画配信というハイブリッド方式で実施したり、対面での保護者会を実施するなど、保護者と職員が情報を共有しました。今後、子どもの発達の状況や課題、子どもの進路等、一つ一つ丁寧に進めながら共通理解できる企画を実施します。
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	13	0	・来年度、少しずつ支援をして行きたい。 ・できる人がいない。研修による人材育成が必要。 ・ペアレントトレーニングについて、具体的なしえんの方法が未学習のため、今後の状況に応じて、学びたい。 ・具体的な視点や方法等の研修、勉強法を知りたい。 ・職員に保護者支援の研修の機会を設定すべき。今の状況で家族支援の加算をとるべきでない。	・地域の保護者の協力を得て、ペアレントメンターとして保護者支援の企画を実施したり、外部専門家を活用した保護者個別相談も実施しました。また、市内の保育園に向けたオンラインの保護者支援研修会を実施しました。来年度は保護者支援に精通した職員による子育て支援教室や保護者個別相談などを定期的に実施して保護者支援を実施して行きます。
	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14	2	1	・契約時に説明している。 ・分からない。	・契約時に利用者負担など説明しています。今後、診療報酬改定等、制度の大きな改定について保護者に対する説明に関するチェックリスト等を作成して、説明義務を果たして行きます。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	15	1	1	・計画の説明の際には、しっかりと説明している。	・今後、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び客観的な支援目標及び内容や、「児童発達支援計画」を示し、保護者に説明と同意を得て行きます。
	③⑭ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15	1	1	・その都度、相談支援を保護者に行っている。 ・あれば対応している。 ・振り返りは実施しているが、細かい部分までは聞き出せていない。 ・適切な対応を意識しているが、自信をもってできていないと言えない。 ・メールでのやり取りを活用している。 ・研修が必要な部分だと思う。	・保護者からの子育ての悩みや就学等の相談や必要な助言を、適時、実施してきました。今後、地域の関係機関や卒園児の保護者に協力を得ながら、インクルーシブな支援や関係機関を活用した支援について、定期的な保護者相談会を試行的に実施します。
	③⑮ 子どもの会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	5	0	・保護者会を実施した。今後も保護者会を実施する計画である。 ・年1回あるが、交流する機会はほとんどない。 ・もっと効果的に行いたい。 ・相談事業所と共同で実施を予定。今後も定期的に実施したい。 ・保護者会では保護者同士の交流を図れなかったため、次回の課題になっている。	・今年度、重心、重心外クラス、短時間クラスの全てのクラスで新型コロナウィルス感染対策をしながら、対面での保護者会を実施しました。来年度は、可能な限り、対面による保護者会を必要に応じて複数回、実施し、保護者同士の連携を支援して行きます。
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	3	1	・その都度、保護者に対応している。 ・保護者の困り事、困り感に対して、優先度を高めて対応している。	・各クラス、利用開始時やモニタリング等で定期的に面談を行い、随時、個々の保護者からの相談や申入れがあった場合に迅速に対応してきました。また、緊急時の事業については、できる限り対面による保護者会を実施しました。今後、定期的な保護者会を実施し、子どもや保護者の相談等に対応して行きます。
非常時等の対応	④⑰ 定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	5	0	・会報は出していないが、クラスだよりは出している。 ・クラスだよりは工夫しているが、見ていない保護者が多いのが課題である。より魅力的な内容にしていきたい。	・今年度、定期的な通信(クラスだより)に加えて、オンラインでの活動概要を配信しました。今後、個人情報保護の対応を十分にしながら、SNSなどを活用した情報発信を実施します。
	④⑱ 個人情報の取扱いに十分注意している	15	1	1	・個人情報は施錠したロッカーで保管するなど、注意して扱っている。 ・支援事業の特性上、契約前に相談支援事業所と個人で対応している。	・個人情報の取扱いについて、確認をしながら十分注意しています。
	④⑲ 障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	15	1	1	・個々の児童に合わせて対応するように心がけている。 ・配慮しているとは思えない。一部スタッフは視覚で確認しやすい工夫をしている。	・情報伝達について一人一人の児童の障害特性に応じた配慮や調整をしています。今後、更に情報伝達の調整に関する支援の工夫をしていきます。また、保護者にも、様々な状況を把握しながら、情報伝達
	④⑳ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	14	1	・感染症対策や施設のスペース確保が課題である。	・今年度、初めて市内自治会長の方々に見学をさせていただきました。今後、地域の方と交流できる場を増やして行きます。
	④㉑ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施	6	10	1		・感染症対策マニュアルは一昨年度改定しました。他のマニュアルについては、再度各クラスの聞き取りを実施しながら改定して行きます。 ・避難訓練等については、実施しましたが、短時間支援クラス保護者に、十分周知ができていませんでした。今後は、大規模災害を想定した訓練を計画・実施するなど、安全・安心を確保できるようにして行きます。
	④㉒ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	7	2	・年2回の訓練を実施している。 ・クラスでのみ実施している。 ・同じ条件での訓練ばかりなので、時間帯や場面を変えながら対応していく必要がある。	
	④㉓ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	15	1	1	・契約時に聞き取りをしている。 ・看護師よりの確かな情報が周知されている。	・契約時に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況は必ず確認しています。
	④㉔ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	3	4	・保護者からの聞き取りはしているが、医師の指示書は確認していない。 ・対応している子どももいるが、されていない子どももいる。 ・わからない。 ・もう少し、アレルギー受入れの条件を明確にしていけると食事への安心につながる。(明確な検査をお願いする、あるいはできないのなら除去食等を提供)	・医師の指示書の有無を確認して、食物アレルギーなどに対応して行きます。
④㉕ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	11	2	・事例集は作成しないが、情報の共有はしている。 ・VTR研修はあるが、業務内で確保されていない。 ・個々には作成しているが、細かい部分までは周知できていない。 ・反省、振り返りはしている。 ・今年度、進めたいことの1つであったが、周知が不十分であった。	・ヒヤリハットについて各クラスで共有しています。今後は、全体での共有を検討し、経営会議や全体職員会など事例集を作成して事業所内で共有して行きます。	
④㉖ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	4	2	・契約時に説明している。 ・研修として「動画を見てください。」のみ。土曜日開催にするなど全員がきちんと話し合う場を設けるべき。	・今年度も、マルトリートメントを含めた虐待を防止するための職員の研修機会を動画にて実施しました。また職員のアンケートも実施しましたが、今後は、身体拘束等の適正化と虐待防止に関する研修も含めて、研修会を実施して適切な対応を実施して行きます。	
④㉗ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	3	4		・姿勢保持が必要な子どもには、転倒防止のため、ベルトによる姿勢保持を行いますので、保護者に事前説明を行い、個別支援計画等に記載しています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。